

IDEC 株式会社 2025 年 3 月期第 1 四半期決算 質疑応答要旨
(2024 年 8 月 2 日開催)

Q. 1Q の決算は弱いように見えるが、期初の想定と比べてどうだったのか。

A. 1Q から段階的に改善していくと想定しており、もともと大きな売上を計画していなかったため、想定と比較して大きな相違はない。ただ、一部出荷の遅れなどの影響も含め、若干想定より売上が低かったため、2Q 以降リカバリーしていく。

Q. 1Q の販管費は想定通りか。また、売上に販管費が連動していくような仕組みになるには、数年かかるのか。

A. 幹部層を含めたグローバルでの人員増強を進めており、1Q の水準は計画からあまり乖離していない。

構造改革の中で3年後のターゲットを想定し、仮に売上が横ばいになったとしても、販売管理費は30%に近づけていけるような体制にしていく。そのため、今後販売管理費は増えていくというより、事業・拠点の統廃合や、プロダクトミックスの見直しなどにより抑えていく。

Q. 2Q 以降の受注の見込みについて。

A. 1Q は前4Q はより受注が落ちると想定していたため、1Q は想定線の推移。

流通在庫水準は平準化しつつあるため、受注も在庫の影響を受けづらい状況になっており、2Q 以降の回復を見込んでいる。

中国は季節性要因で前4Q に受注が増加したが、中国以外のアジア地域もそれほど下がる傾向ではないため、今後アジア・パシフィックとしては増加傾向と想定している。

Q. エンドユーザー在庫の状況について。

A. 日本では、エンドユーザー在庫も影響して売上に影響が出ている状況。一方、流通在庫の水準は平準化してきており、またエンドユーザー在庫も減っているため、2Q 以降は徐々に回復してくることを見込んでいる。

Q. 中期経営計画の発表のタイミングは、2Q (11月) になるということで変わらないか。

A. 構造改革の取り組みについては、今年度下期以降に発生するものが大きいため、具体的なお説明をするために11月のタイミングがよいのかについては、もう少し精査する必要がある。

Q. 各業界動向について。

A. 工作機械、ロボットは、日本を中心に流通在庫、エンドユーザー在庫の水準がまだある程度あるため、厳しい状況。半導体関連は一部で動きも出ており、自動車も各エリアそれほど悪い状況ではない。特殊車両は若干厳しい状況で、マテリアルハンドリングは回復傾向がまだ顕著には出ていない。AGV・AMR は堅調には推移。

Q. 中国における業界別売上に、他の地域と比べた違いはあるか。

A. エレベータ向けは他の地域よりも大きく、建設や不動産業界などエレベータに関係する業界がまだ厳しい状況のため影響を受けている。その他の主要な業界でもあるロボット、半導体、自動車については底堅くは推移している。

以上